

# 石川県立自然史資料館 中期経営目標

(実施期間 平成29年度～平成33年度)

平成29年3月 策定

## 1 施設の設置目的

自然史資料の収集、保管及び展示並びに自然史資料に関する調査研究及び普及に関することを行い、県民の自然に対する親しみと理解を促進するために、自然史資料館を設置しています。

## 2 施設の果たすべき役割

石川県全域の自然史資料（化石・岩石、動物標本、植物標本等）の収集・整理・保管及び調査研究を行い、そのことによって得られた「ふるさといしかわの自然」の特徴を、展示や教育普及活動により積極的に展開し、県民の自然史への関心を高めるとともに、環境教育・ふるさと教育の推進を図ることが、自然史資料館の役割です。

## 3 事業内容

### (1) 展示・教育普及活動等による情報発信

資料館収蔵資料を活用し、展示（常設・企画・特別・館外）や教育普及活動（普及講座・特別講座・講演会等）等を通して、県民をはじめとする広範な方々へ情報を提供します。また、自然に親しむための情報や調査研究に基づく情報などを発信します。

### (2) 自然史資料の収集・保管及び調査研究

自然史分野を総合的に扱う県内唯一の資料館として、石川の自然とその変遷に関する化石・岩石・動物・植物資料等を収集・整理・保管します。また、これらの資料を調査研究し、石川の自然史について明らかにしていくとともに、将来に継承します。

### (3) 学習を支援し、自然に関心を持つ人材を育成

学校や社会教育施設、地域施設を対象に、地域の自然や資料館収蔵の資料を活用した出前講座を実施することで体験学習を支援します。また、これらの体験学習や展示を通じて、自然に関心を持つ人材育成を推進します。

## 4 現状と課題

### (1) 管理運営体制について

- ・自然史資料館では、民間のノウハウを活用し、施設を効果的・効率的に管理するため、指定管理者制度を平成20年度から導入しています。

- ・施設内外における展示及び教育普及活動の企画・運営、利用促進、施設・設備及び備品の維持管理及び修繕などの業務は指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間（平成29年度から平成33年度）は、「特定非営利活動法人 石川県自然史センター」を指定管理者として指定しています。
- ・県では、自然史資料館の円滑な運営を図るため、管理業務に関する情報交換のための連絡会等を随時実施し、指定管理者とともに適正な管理・運営に努めています。

## (2) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・民間のノウハウを活用し、広報やディスプレイ等に工夫を凝らした展示（常設・企画・特別）の開催、学芸員による講義、製作・観察体験等の教育普及講座を実施することで、入館者の増加に取り組んできたところであり、平成27年度の入館者は、指定管理者制度導入前の19年度の約1.7倍にあたる5,022人となっています。今後さらに多くの方に利用していただくため、展示や教育普及講座について、より一層、学習効果と魅力を兼ね備えたものにしていく必要があります。
- ・周辺の学校や社会教育施設等への訪問による広報活動により、少しずつ団体見学、出前講座、講演会の申し込みが増加しています。今後とも、地域のみなさんの要望に添った講座や学校における学習活動と関連づけた講座を開催することで、利用促進を図っていく必要があります。
- ・広報活動としては、学校等の施設訪問、ホームページやイベント情報などの発信や、新聞・情報誌などへの情報提供・掲載のほか、マスコミへの取材依頼・協力などを行っていますが、今後とも、効果的な情報発信に努めていく必要があります。
- ・利用者アンケートやご意見箱により利用者の意見を把握し、迅速に対応するとともに、朝の打合せや全体会議を利用し、職員間での情報共有を図っていますが、今後ともさらに利用者に満足いただくため、ボランティアの活用等の取り組みを進める必要があります。

## (3) 施設運営の効率化について

- ・光熱費、消耗品費などの節約による、管理コストの低減化を進めています。
- ・企画展示では、他の機関と連携し展示資料やディスプレイ材料等を借りることで、コストの低減化を進めています。

## 5 中期経営目標

### (1) 中期経営目標（指定管理者が実現すべき目標）

- ① 入館者数を5年間で7,000人にします。
- ② 館外事業(出前講座、野外活動等)の参加者数を5年間で1,300人にします。
- ③ 利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

### (2) 測定指標と目標値

測定指標		実績値(H27)	目標値(H33)
① 入館者数		5,022人	7,000人
② 館外事業(出前講座、野外活動等)の参加者数		1,218人	1,300人
③ 利用者アンケートにおける満足度	利用者サービス	100%	95%以上
	施設の維持・管理	98%	95%以上

## 6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

### (1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

#### ① 施設の利用促進

- ・ 児童・生徒や学生ならびに勤労者の利活用を促進する観点から年末年始の一週間以外は、通年で土日祝日も、休みなく開館し、サービスの提供をおこないます。
- ・ 教育普及講座においては、子どもたちの自然への興味を高めるため、夏休み期間中の講座の内容を充実させます。
- ・ 学校との連携を密にし、学習内容とのつながりを持たせた、出前講座や講演会を提供するとともに、大学や文化・研究施設との連携を図り、収蔵資料の貸借などを進めることで、より魅力的な展示や講座を実施します。
- ・ 自然史資料館周辺をエコミュージアムと位置付け、魅力に富む多彩な自然に恵まれたフィールドでの野外活動を充実させます。

#### ② 広報活動の強化

- ・ 県立森林公園や県立生涯学習センター等と連携し、館外展示を実施することで、自然史料館の認知度の向上を図ります。
- ・ ポスターやホームページ等による情報発信はもとより、若い世代に向け、スマートフォンをはじめとした、電子的手段による広報活動を導入します。

#### ③ 利用者サービスの向上

- ・ 教師経験を持つボランティアに展示説明や野外観察の指導にあたっていただくことで、利用者の満足度向上を図ります。

- ・職員の接遇力を向上させるための研修を実施します。
- ・利用者の方々のご意見・ご要望を把握するため、アンケート等を引き続き実施します。
- ・自然史資料に関するレファレンス情報の提供機関として、個人、法人、団体、学校機関等、地域社会の要望に応えます。

## (2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・ボランティア、自然史センターの加入団体を対象とする研修活動の強化により、そうした方々との協働を量的質的に向上させ、運営の効率化を図ります。
- ・光熱費、消耗品費などの節約による、管理コストの低減化に努めます。

参考資料(施設の利用状況など)

(1)利用指標(利用人数などの状況)

項目	H25	H26	H27
入館者数	6,065人	5,929人	5,022人
館外事業参加者数(出前講座・野外活動等)	1497人	905人	1,218人

(2)使用許可等の状況

該当なし

(3)使用料の収入実績

該当なし